

# 音 楽

## I 教科、種目の観点

資料作成に当たっては、共通観点の他に、学習指導要領(平成29年3月)に示された各教科の目標や内容等に即して検討し、教科独自の観点を定めた。

<b>1 教育基本法の理念や第三期長崎県教育振興基本計画の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長</b>	
<b>共通 観点</b>	(1) 教科の特質に応じて、「教育の目的」及び「教育の目標」の達成、「本県教育が目指す人間像」の育成に資する内容、構成となっているか。
	(2) ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然について理解を深める学習に生かせる題材が扱われているか。
<b>2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長</b>	
<b>共通 観点</b>	(1) 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されているか。
	(2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されているか。
	(3) 主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるよう工夫されているか。
<b>教科 独自 観点</b>	(4) 表現領域の各分野及び鑑賞領域の関連を図ることができるような内容・構成になっているか。
	(5) 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽の働きと関わらせて理解し、活用することができるよう工夫されているか。
	(6) 我が国の音楽に愛着をもち、世界の様々な音楽の多様性を認め、大切にしていこうとすることができるよう工夫されているか。
<b>3 学習効果や使いやすさ、見やすさ(ユニバーサルデザイン)等の観点からの表記・表現や体裁の特長</b>	
<b>共通 観点</b>	(1) 文章は、分かりやすく、質・量ともに適切な記述となっているか。
	(2) 写真、挿絵、図表などは、学習意欲を高めるとともに、学習内容との関連や学習効果に十分配慮されているか。
	(3) レイアウトや色彩、文字の大きさ、挿絵の活用、紙質、製本等については、適切に配慮されているか。

## II 選定資料利用上の留意点

- 1 資料の作成に当たっては、設定した観点ごとに、特に目立った事柄を取り上げること。
- 2 利用に際しては、全体を通して総合的に判断し、各教科書の特色をとらえるとともに、地域の実態、その他の条件を考慮して、適正な採択のための資料とすること。
- 3 前記の観点と次表の観点、具体項目とは、対応させて読み取ること。

## III 具体項目

観点	発行者	教 出	教 芸
<p>1 長 旨 育 成 目 的 基 本 法 踏 理 念 三 期 長 崎 県 教 育 振 興 基 本 計 画 上 段 階 特 徴</p>	<p>(1) 成 育 成 目 的 基 本 法 踏 理 念 三 期 長 崎 県 教 育 振 興 基 本 計 画 上 段 階 特 徴</p> <p>(2) か 題 然 統 ぶ 材 に ・ る さ と 長 崎 の 歴 史 的 な 文 化 的 な 資 源 を 活 用 し て 学 習 化 成 果 を 確 保 する こと が 目 的 である</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 巻頭には、我が国の代表的な歌唱曲について、写真と共に作詞者や作曲者のメッセージや楽曲の背景を掲載することで、我が国の音楽に対する理解を深め、大切にしようとする心情や態度を養うことができるよう配慮されている。</li> <li>・ 2・3年上・下巻の「私たちのくらしと音楽」では、音楽にかかわる仕事や音楽のもつ力、著作権について掲載し、生活における音楽の役割を考えることで、生涯を通じて音楽とよりよく関わろうとする資質を育むことができるよう配慮されている。</li> <li>・ 2・3年下巻の「コンピュータと音楽」では、情報化社会における音楽とのかかわりについて、創作・表現・鑑賞の分野ごとに、その利点と注意点について分かりやすく記述することで、コンピュータを通して主体的に音楽に関わる態度を育むことができるよう工夫されている。</li> <li>・ 2・3年上巻の「郷土の音楽や芸能」では、「長崎くんち」の「龍踊」についての説明と写真が掲載されており、ふるさと長崎の伝統・文化と音楽との関連について理解を深めることができる。</li> <li>・ 2・3年下巻の「CMソングをつくろう」では、地域の名物や名所を紹介するCMソングを作成することで、ふるさとのよさについての理解を深めることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 巻頭には、我が国の代表的な音楽家や批評家からのメッセージを掲載することで、我が国の音楽に対する思いを深めるとともに、幅広い価値観を養い、豊かな情操を培うことができるよう配慮されている。</li> <li>・ 「生活や社会の中の音楽」では、音楽と生活や社会との関連について掲載し、人生における音楽の役割について考えることで、よりよく生きるための豊かな心を育むことができるよう配慮されている。</li> <li>・ 2・3年下巻の鑑賞では、ポピュラー音楽をジャンル別に図式化し、簡単な解説と記入スペースを設けるとともに、著作権について分かりやすく解説することで、音楽の多様性を理解し、音楽に親しむ態度を養うことができるよう工夫されている。</li> <li>・ 1年の「郷土に伝わる民謡を調べよう」では「長崎ぶらぶら節」が、2・3年上巻の「受け継ごう！郷土の祭りや芸能」では「長崎くんちの奉納踊」についての写真が掲載されており、ふるさと長崎の伝統・文化と音楽との関連について理解を深めることができる。</li> <li>・ 2・3年下巻の「私たちが受け継ぐ郷土の祭りや芸能」では、各地に伝わる祭りや芸能に取り組む中学生を紹介することで、ふるさとの伝統文化についての理解を深めることができるよう配慮されている。</li> </ul>
<p>2 上 学 習 指 導 特 徴 長 崎 県 教 育 振 興 基 本 計 画 上 段 階 特 徴</p>	<p>(1) 夫 実 基 礎 的 な 知 識 ・ 技 能 を 確 立 する こと が 目 的 である</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各学年の「Let's Sing!」では、歌うための準備、言葉の発音、旋律のまとめ、フレーズと形式について、学年に応じて掲載することで、各学年で身に付けるべき基礎的な歌唱の知識・技能を習得することができるよう工夫されている。</li> <li>・ 器楽では、リコーダー、和楽器、ギターの基本的な奏法について、手元や口元が大きく見える写真を使用したり、曲に使用する運指やコードを同じページに掲載したりすることで、演奏上の基礎的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されている。</li> <li>・ 鑑賞のポイントについて、図や楽譜によって分かりやすく解説することで、実際に曲を聴いて感じたことと、音楽の特徴とのかかわりを理解することができるよう工夫されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各学年の「My Voice!」では、歌唱表現における基礎的な姿勢や呼吸、歌声づくりについて段階的に解説することで、3年間を通じて基礎的な歌唱の技能を習得することができるよう工夫されている。</li> <li>・ 器楽では、楽器の基本的な奏法について、写真入りの丁寧な解説を掲載することで、各楽器の特徴や音色、奏法を正しく理解し、演奏上の基礎的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されている。</li> <li>・ 鑑賞のポイントについて、楽譜や解説、写真や挿絵などを掲載することで、実際に曲を聴いて感じたことと、音楽の特徴とのかかわりを理解することができるよう工夫されている。</li> </ul>

### III 具体項目

音楽

観点	発行者	教 出	教 芸
<p>2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長</p>	<p>(2) すでに知識・技能が必要な思考力、活用できる判断力、課題を解決するための育成か。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全編にわたり、人物のセリフの形でアドバイスを掲載することで、学習した知識や技能を活用したり、音楽のよさや美しさを味わったりすることができるよう工夫されている。</li> <li>全編にわたる「話し合おう」では、他者と伝え合い、論じ合う活動を行うことで、曲に対する自分の考えを根拠をもってまとめ、自分の表現に生かすことができるよう工夫されている。</li> <li>器楽の「何が同じで、何が違う？」では、楽器の特徴を理解し、共通点や相違点についてまとめる活動を行うことで、それぞれの楽器のよさに着目し、ふさわしい表現を考えることができるよう工夫されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌唱教材の「深めよう！音楽」では、曲の構造や歌詞の特徴を基にした、学習のまとめや他者との意見交換を行うことで、曲にふさわしい表現を考えることができるよう工夫されている。</li> <li>1年及び2・3年下巻の「曲のよさをプレゼンしよう」では、曲のよさを紹介文として他者にプレゼンテーションすることで、これまでの学習で身に付けた知識を基に、音楽を批評する力を育成することができるよう工夫されている。</li> <li>器楽の「アンサンブル」では、表現の工夫についてのアドバイスを示すことで、身に付けた基礎的な奏法を生かして、創意工夫しながら、曲にふさわしい表現を考えることができるよう工夫されている。</li> </ul>
	<p>(3) 主体的に学習に取り組む態度を身に付けるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年の「作者の思いにふれる」では、作曲者の言葉や自筆譜を掲載することで、作曲家の楽曲に対する思いに触れることを通して、生徒の音楽に対する意欲を高めることができるよう工夫されている。</li> <li>全編にわたり、「学習資料」「Let's Try!」「比べてみよう」「深めてみよう」を示すことで、その教材で学習した内容を手がかりに、さらなる表現の工夫や鑑賞の深まりにつなげることができるよう工夫されている。</li> <li>器楽のリコーダーの学習では、各ページの最初にねらいを明確に示すことで、曲の演奏のポイントを手がかりに、学習の見通しをもちながら主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年の「音楽ってなんだろう」では、批評家のメッセージを掲載することで、音や音楽に対する興味を高め、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。</li> <li>各学年の「リズムゲーム」「My Melody」「Let's Create!」では、創作活動の手順を丁寧に解説し、発展的な学習への手がかりを吹き出しで示すことで、生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。</li> <li>器楽のリコーダーでは、演奏上の疑問についてQ&amp;A形式で示したり、ソプラノリコーダーでの楽譜を多く掲載したりすることで、小学校での学習を生かしながら、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。</li> </ul>

### Ⅲ 具体項目

観 点	発 行 者	教 出	教 芸
<p>2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長</p>	<p>(4)            が賞表            できる領域            領域の            なる関各            つよ連分            っている野            か。な及            内容こ            ・び            構と鑑</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学びのユニット」では、ねらいや学びの手がかりとなるヒントを明確に示すことで、表現及び鑑賞の教材を、関連付けて学習を進めることができるよう配慮されている。</li> <li>各学年の鑑賞領域である我が国の伝統音楽の後に、「Let's Try!」のコーナーを設け、唱歌や和楽器を使用した表現活動を取り入れることで、効率的に学習を進めることができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目次の次ページにある「学習内容」では、表現領域の各分野及び鑑賞領域での学習内容と各教材との関係を明記することで、各領域、各分野について効果的に学習を進めることができるよう配慮されている。</li> <li>各学年の鑑賞領域である我が国の伝統芸能では、唱歌、長唄や義太夫節、謡などの表現活動を詳しく掲載することで、表現及び鑑賞の学習を関連付けて進めることができるよう配慮されている。</li> </ul>
	<p>(5)            か。楽に音            この関楽            こと働わ            がきと形            でと用            でき語づ            けるわく            ら記や            ようせつ            う工理な            夫解に要            されし、素            て、いび            活、てそ            用、れ            す音ら</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全編にわたり、音楽を形づくっている要素に関する用語や記号を、ページ右端に掲載することで、教材と関連させながら理解し、活用することができるよう工夫されている。</li> <li>1年及び2・3年上巻の「どんな特徴があるかな？」では、音楽を形づくっている要素について、簡単な鑑賞曲を用いて解説することで、それらの働きによる効果を理解することができるよう工夫されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教材に音楽を形づくっている要素と学習すべき用語や記号を掲載することで、それらの働きや曲想とのかかわりを理解し、活用することができるよう工夫されている。</li> <li>各学年の資料のページ「音楽を形づくっている要素」において、取り扱い教材の解説を示すことで、共通事項をよりどころにして学習を振り返ったり定着を図ったりすることができるよう工夫されている。</li> </ul>
	<p>(6)            る切の我            よに様            うし々国            工てな            夫い音            さ音楽            れこの            ている多            か。様            性を            が認            がめ、            でき世界</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>器楽の「音のスケッチ『楽器と唱歌によるパッチワーク』」では、我が国の伝統音楽の旋律やリズムを使用し、お囃子をグループで演奏することで、我が国の音楽への愛着を高めることができるよう工夫されている。</li> <li>2・3年上巻では、郷土の音楽や芸能について、写真や解説を交えて、4ページにわたり掲載するとともに、関連した「まなびリンク」を設定することで、我が国の伝統音楽の特徴を理解し、大切にすることを養うことができるよう工夫されている。</li> <li>2・3年下巻の「さまざまな舞台芸術」「物語を表現するアジアの芸能や音楽」では、音楽と他の芸術との関連についての解説を掲載することで、世界の様々な音楽の多様性について理解を深めることができるよう工夫されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「歌い継ごう日本の歌」では、年代を問わず広く親しまれている曲について、合唱や斉唱を通して味わうことで、我が国の音楽に愛着をもち、大切にすることを養うことができるよう工夫されている。</li> <li>1年の「郷土に伝わる民謡を調べよう」では、日本音楽に関する言葉について分かりやすく解説することで、音楽の多様性や我が国の音楽の固有性を理解し、大切にしていこうとする態度を養うことができるよう工夫されている。</li> <li>各学年の「諸民族の音楽」では、聴き比べたい楽曲を紹介することで、共通点や相違点を見いだしながら、世界の様々な音楽の多様性を理解することができるよう工夫されている。</li> </ul>

### Ⅲ 具体項目

音楽

観点	発行者	教出	教芸
<p>3 長 学習効果や使いやすさ、見やすさ（ユニバーサルデザイン）等の観点からの表記・表現や体裁の特</p>	<p>(1) 質文章は、量ともに分かちやすく、記述</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年の「変声と混声合唱」では、変声について分かりやすい文章で説明するとともに、変声による不安を和らげるために、挿絵によるコメントを示すことで、混声合唱に取り組む意欲を高めることができるよう工夫されている。</li> <li>各学年の「発展」では、音や音の三要素について、生活の中での体験例を科学的な視点で説明することで、分かりやすい記述となるよう工夫されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師と生徒との会話形式の説明を多く使用することで、生徒が親しみをもって教科書を見ることができ、学習意欲を高めることができるよう工夫されている。</li> <li>2・3年上巻の鑑賞の「アイダ」「歌舞伎」「文楽」、2・3年下巻の鑑賞「能」では、あらすじや鑑賞のポイントを分かりやすく簡潔に示すことで、生徒の興味・関心を高めることができるよう工夫されている。</li> </ul>
	<p>(2) か連を写真、や高真、学挿め、習ると効果とも、に十分配学内習意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年に「学びのユニット」として、ねらいと学習する曲や活動を整理して示すことで、学習効果を高めることができるよう配慮されている。また、ウェブサイト「まなびリンク」につながる二次元コードを示すことで、主体的に学ぶことができるよう配慮されている。</li> <li>大きく鮮やかな写真を多数掲載することで、歌詞の表す情景や楽曲について、視覚的なイメージをもって表現することができるよう配慮されている。また、器楽では、楽曲の基本奏法にかかわる部分に、適切な矢印を付けることで、理解を深めることができるよう配慮されている。</li> <li>巻末に鑑賞教材で学習する郷土の民謡に用いられる楽器や、世界の舞台芸術の写真を種類ごとに掲載することで、それぞれの特徴を比較することができるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目次の次に、目標と内容について図式化したページを掲載することで、学習効果を高めることができるよう工夫されている。また、発展的な内容につながる二次元コードを随所に示すことで、主体的に学ぶことができるよう配慮されている。</li> <li>共通教材では、写真を多く掲載したり、縦書きの歌詞を掲載したりすることで、歌詞の内容の理解を深めることができるよう配慮されている。また、器楽では、楽器の種類や奏法の写真を並べて掲載することで、比較して特徴を捉えることができるよう配慮されている。</li> <li>器楽の資料「日本音楽の楽器編成」では、我が国の伝統芸能で使用される主要な楽器を一覧表で示すことで、比較しながら特徴をつかむことができるよう配慮されている。</li> </ul>
	<p>(3) さ本きレイア、れ等さイアウト、てに、挿絵や、いっ、活色、か、は、用、適紙、切文、に質、の、配製大</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲名を太字で大きく示したり、本文中の文字の種類やサイズを使い分けたりするとともに、器楽において、楽器別にインデックスを設けることで、生徒が学習箇所を探しやすく、内容が分かりやすくなるよう配慮されている。</li> <li>「音のスケッチ」創作のページでは、使用する色の数をしぼり、例を紹介しながら活動の順序を示すことで、活動内容が分かりやすくなるよう配慮されている。</li> <li>1年の「箏を弾いてみよう」では、箏の楽譜を1ページにわたって掲載することで、生徒が演奏しやすくなるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目次のページは、教材名とページを分かりやすく記載するとともに、器楽では、楽器の種類及び教材のまとまりごとにページを色分けすることで、検索しやすくなるよう配慮されている。</li> <li>楽譜は全て背景を白に統一し、周りのイラストや説明を最小限にすることで、見やすくするとともに、必要な書き込みができるよう配慮されている。</li> <li>器楽では、リコーダーの運指表やギター／キーボードコード表を、見開き2ページで掲載することで、生徒が使いやすくなるよう配慮されている。</li> </ul>